

END
POLIO
NOW

行動しよう 世界ポリオデー

#endpolio | endpolio.org

10月24日(木)を中心に
世界中が行動します



2024年世界ポリオデーフォトコンテスト「NOW in Mt FUJI」
撮影／Ishida Masae

という声があります。
昭和30年代に我々の世代を襲った
小児麻痺の恐怖が
忘れられないからです。

ポリオ の根絶、何故そこまで 固執するの？



2024年3月 パキスタン現地でワクチンを投与する日本のロータリアン

日本では昭和30年代にポリオの大流行があり、当時多くの小児が神経麻痺等の後遺症を残しました。それに対して、政府は生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉投与により以後の流行はみられなくなりました。1980年に1例の発症があった後、現在まで日本では野生のポリオウイルス感染は起きておらず、2000年には日本でのポリオ根絶宣言が出されています。

しかし、海外では僅かとはいえパキスタン、アフガニスタンなどでまだ野生株によるポリオ発症が見られ、ポリオ患者ゼロの国に野生株が侵入し散発性の感染を引き起こした事例も報告されています。ポリオウイルスに感染しても麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国（あるいは入国）してしまうこともあり、症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。予防接種を受けない人が増え、免疫を持たない人が増えると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫を持たない人から持たない人へと感染し、ポリオの流行が起きる可能性が高まります。

**野生株が生きている限り
その恐怖は消えることはありません**

国際ロータリーは過去35年以上にわたりポリオ根絶活動をロータリーの目標に掲げ、ポリオを世界からなくすという活動を行ってきました。私たちの目標は今、達成まで本当にあと少しのところにきています。また、生ワクチンに含まれるウイルスが数百万人に一人程度、本来の毒性を回復してVAPP（ワクチン関連麻痺）を生じさせていることも報告されています。このため、WHOでは、生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンに切り替えるすべてのポリオウイルスの根絶を目指しています。

尾身氏 ポリオ根絶 アンバサダーに

尾身茂氏は、自治医大卒、元地域医療学センター教授、2000年WHOアジア西太平洋地域事務局長として、この地域における小児麻痺（ポリオ）根絶を宣言された。また21世紀最初の公衆衛生の危機となったSARS対策でも陣頭指揮をとり、日本に戻ってからは新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、感染症対策の第一人者として新型コロナウイルス感染症対策分科会の会長として活躍されたことはあまりにも有名。現在は公益財団法人結核予防会理事長。

「使われ方だけをとってみれば、ワクチンは消耗品の分類に入るかもしれませんが、でも子どもにも免疫ができることによって、その効果は生続く『固定資産』になります。さらにこの戦略が成功すれば、ポリオワクチンそのものが不要になります。橋や建物はいつかは滅びますが、この財産は永遠に残ります。こうして始まったアジア西太平洋地域でのワクチン接種は国際ロータリークラブが先鞭をつけ、さらに当地域のリーダー格の日本がその決意を示したことで、他の援助機関もポリオ根絶計画への拠出に対し積極的になり、ポリオ根絶に向けた大きな歯車が回し始めたのです。」

この度、尾身氏はポリオ根絶アンバサダーを委託され、ポリオが世界中から消えるまでロータリーとともに行動することを言明された。

最近の著作

「100日間の葛藤 新型コロナ・パンデミック、専門家たちの記録」 日経BP 医学書院

「WHOをゆく、感染症との闘い」 医学書院



ポリオウイルス感染の現状

2024年10月1日現在

野生型ポリオウイルス1型	wPV1
パキスタン	19
アフガニスタン	23
伝播型ワクチン由来ポリオウイルスII	cVDPV2
80%がコンゴ、ナイジェリア、ソマリア、イエメン（422例）	
不活性化ポリオワクチン	nUPV2をWHOが承認
ポリオウイルス2型対応＝次世代対応ワクチンで	
子どもを病氣、麻痺から守る	

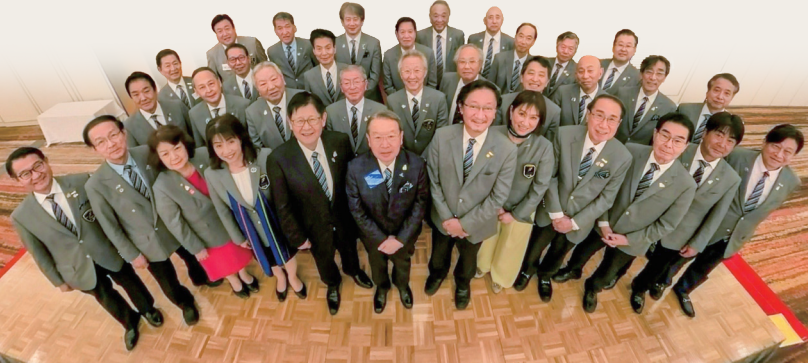
The Magic of Rotary

プロジェクトを終えるたびに 皆さんはマジック(魔法)を生み出します



ステファニー・A.アーチャック
国際ロータリー会長

マクマリーロータリークラブ(米国ペンシルバニア州)所属。高等教育、コンサルティング、エンターテインメント業界における職歴を有し、リーダーシップ研究の博士号を取得。1991年に入会以来、さまざまな国際奉仕プロジェクトに参加し、ドミニカ共和国で浄水器の設置活動に携わった時、汚い水が透明な水に変わるのをみた少年が「もう一度今のマジックを見せて!」と叫んだのに感激し、本年度の会長テーマをThe Magic of Rotaryとした。アーチャック氏は、ロータリーの行動計画を推進し、継続と変化のバランスを取り、平和のために活動するよう会員に促し、また、ポリオ根絶活動を継続することの重要性も強調している。



2024-2025年度 34地区のガバナーと
国際ロータリー 水野理事、三木財団管理委員

ロータリーは1905年、急速な経済拡大で商業道徳が乱れていたシカゴで、弁護士ポール・ハリスが友人3人を誘って、心の許せる仲間づくりを目指して発足しました。彼らが当初、各自の職場を巡って定期的に例会を開催したので「ロータリークラブ」と名付けられました。その後、米国だけでなく世界中で多くの賛同者が参画し、日本初の東京ロータリークラブが創立された1920年には16カ国に800以上のクラブがあり、会員数は6万人を超えました。1999年が経過した今、世界200カ国以上の国と地域に約37,000のクラブに116万人の会員が、信頼できる友情の構築と世界平和を目標に奉仕活動に励んでいます。

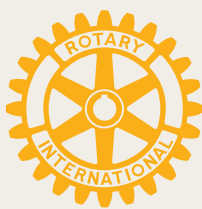
2024-25年度のステファニー・A.アーチャック国際ロータリー会長は「ロータリーのマジック」を今年の年度テーマに据え、世界で地域社会でロータリーならではの感動的な出会いや奉仕活動の実績を数多く積み上げるよう会員に呼びかけています。

ロータリークラブ創立時より友情で結ばれた会員が「超私の奉仕」の精神をもとに各自の職業を誠実に行うことを心掛けています。さらに、世界的なネットワークを活用して世界各地で奉仕活動を精力的に行っています。なかでも幼い子どもたちの後の一生を奪ってしまう「ポリオ根絶」を奉仕の最優先項目としてワクチン接種を展開しています。ご承知のようにガザでもポリオが発生するなど未だ予断を許さない状況です。10月24日を「世界ポリオデー」として世界のロータリークラブが様々な催しを計画し啓蒙活動や寄付促進を行います。是非、身近な問題として「ポリオ根絶」に向けてのご支援とご協力をお願い致します。

日本では若手会員を対象としたロータリーアクトクラブを合わせて2,000以上のクラブに10万人近い会員が自己研鑽を積みながら活発に活動しています。ロータリークラブに関心をお持ちでしたらお近くのロータリークラブにお問い合わせいただけますようお願いいたします。あなたの人生をさらに豊かにするロータリー活動へのご参加を心からお待ちしています。

国際ロータリー理事 水野功

Rotary
Zone1A,2&3



<https://www.rotary.org/ja/our-causes/ending-polio>



広 告